

桜町再開発・花畑町ひろば整備の予算 執行「凍結」の解除に道理なし

6月12日の本会議で、新年度予算の決定に際し、凍結されていた「桜町再開発・花畑町ひろば整備」予算の凍結を解除する委員長報告が議決されました

6月12日の本会議に、3月議会終了から約2カ月にわたって開かれていた「桜町・花畑地区再開発事業の付帯決議に関する特別委員会」委員長報告が行われました。新年度予算議決にあたってつけられていた「桜町再開発事業と花畑町ひろば整備の関連予算」凍結を解除する報告が、日本共産党熊本市議団3名を除く、全議員の賛成で可決されました。

桜町再開発・花畑町ひろば整備関連予算の執行にゴーサインが出されたこととなります。しかし、特別委員会の論議ではっきりしたのは、桜町再開発に300億円、花畑町ひろば整備に40億円もの税金投入には全く道理がないということです。上野みえこ議員が質疑を、益田牧子議員が反対討論を行い、問題点を指摘しました。

ひろば整備に40億円も使うなら、 産文会館を改修して利用すべき

特別委員会では、ひろば整備に40億円もかかると説明されました。一方、産業文化会館改修費は26億円と過大見積もり、精査すれば半分程度で改修可能です。まだ何10年も使える施設を5億円もかけて取り壊す必要はありません。

中心街には「中規模ホール」が必要

産業文化会館が閉鎖になって、中心街には芸術文化に適した固定席の中規模ホール(500~800席)がなくなりました。産業文化会館の利用者から再開を求める声はますます強くなっています。



市民の理解・納得は得られていない

もともと特別委員会設置の理由は、「市民への説明不足」でした。市民から陳情のあった「公聴会」も開かれないままの予算凍結解除には、全く道理がありません。

しかも、特別委員会には各界からの陳情が相次ぎ提出され、市長に提出された「産文再開を求める署名」は約1万筆に上っています。

産業文化会館は、まだ十分に使える

産業文化会館老朽化の根拠が崩れました。耐震構造に詳しい熊大名譽教授や、青木茂首都大学東京特任教授から、耐震補強をすれば十分に使えるとお墨付きをもらいました。

清瀬市(東京)清瀬けやきホール(客席数508)は、新築なら45億円が、事業費20億円でリニューアルの入札、10億で落札、最終的には12億円で立派に生まれ変わりました。

奨学金は教育ローンであってはならない
なすまどか

先日「奨学金問題を考える学習会」に参加しました。大学卒業と同時に、数百万円の奨学金返済を背負い社会へ船出する青年。返還できなければ年10%の滞納金が科せられ、9か月の滞納で訴訟も起こされる。奨学金をめぐる現状を知り、怒りがわいてきました。

大学初年度の学費は、国立で82万円、私立で132万円と他国に比ベダントツに高い状況です。にもかかわらず、多くの国にある給付制の奨学金制度も存在していません(OECD30ヶ国中、給付制奨学金がない国は日本とアイスランドの2ヶ国のみ)。

教育を国から施される「益」とみなし、学生や父母に多額の負担を求める日本の姿は、世界から見れば「異常」そのものだということを改めて感じました。

教育によって「益」を受けるのは、学生ではなく、国や社会の側です。だからこそ多くの国では、高校や大学の無償化を図るなど、国や社会を支える「人の成長」に予算を惜しみません。

「お金がなければ学ぶこともできない」「——」「受益者負担」「自己責任」などの言葉で、未来ある青年から教育の機会と成長のチャンスを奪う貧弱な教育制度を抜本的に改める必要があります。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団
ますだ牧子 上野みえこ なすまどか
熊本市手取本町1-1 議会棟3階

No. 854
2013年6月23日号
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/



子どもたちに安全で快適な教育環境を! 小中学校ウォッチングを行いました

子どもたちが生活の大半を過ごす学校。教育委員会には、各小中学校から、校舎の修繕や体育館・プールの改修など様々な要望が寄せられています。

各学校には、修繕費などに充てる配当予算が配分されていますが、現場からは「予算が十分ではなく、修繕されない箇所も残っている」「予算をもっと増やしてほしい」との切実な声も寄せられています。

日本共産党市議団は、こうした声を受け、小中学校ウォッチング

を実施。教育委員会の施設課の職員にも参加していただき、学校からの具体的な声を聞くとともに校舎などを調査しました。



理科室など特別教室にも冷暖房施設を

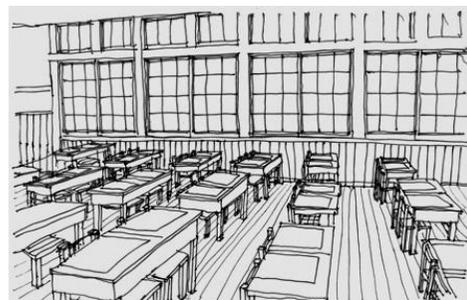
学校ウォッチングを通じて、「理科室や家庭科室など特別教室には扇風機などが設置されておらず、生徒も先生も汗を拭きながら授業を行っている」との声が寄せられました。

現在、普通教室には扇風機、図書室には冷暖房が設置されていますが、理科室などには設置されていません。

「夏場になれば35度を超える時もある。どうにかしてほしい」と

の先生からの訴えも寄せられています。

子どもたちが集中して授業に臨める環境をつくるためにも、扇風機や冷暖房の設置が早急に求められます。



校庭の男女共有のトイレが使えない～男女別々に

「校庭のトイレが男女共有となっているため女生徒が利用できない」との要望があり現場を見ました。入口から男女それぞれのトイレが見えるなど、利用しづらい状況でした。

入口を分け、トイレを男女で区切るなど改修が進められていますが、まだまだ多くの男女共有トイレが残



された状況になっています。早急な対応が求められます。

すべての特別支援教室に冷暖房を!

心身障がいのある子どもや自閉症などの子どもたちに、適切な教育や指導を通じ、支援を行っている教室が特別支援教室です。

熊本市は、こうした特別支援教室への冷暖房の設置予算を計上しましたが、各学校1クラス分のみとなっています。

視察を行った学校では、特別支援教室が6教室あり、どの教室に設置するのか現場の先生は頭を悩ませている状況でした。

「特別支援教室を利用するすべての子どもたちに快適な教育環境を提供したい」という思いは、現場で働く教師にとって当

たり前の願いです。一教室分の冷暖房の予算しかつせず、学校現場に苦渋の選択をせざることは許されないと感じました。

大型ハコモノを見直し、普通教室にもエアコンを

中心市街地の再開発には数百億円の税金が投入されようとしています。

大型開発を見直し、その一部を教育予算に回せば、すべての特別支援教室への冷暖房の設置は可能です。また、人吉市などで実施しているすべての普通教室への冷暖房設置も実現できます。